

# 原生花園と自然保護

米 司 綾 逸

国道38号線、浦幌町字吉野から10kmほどのところに通称「豊北原生花園」と呼ばれる海岸がある。正式には、「北海道指定天然記念物・大津トイトッキ浜野生植物群落」という。浦幌町豊北地区を通って行くのではあるが、豊頃町字ライップペットという住所の示すとおり、れっきとした豊頃町である。面積は25,181m<sup>2</sup>、以前は63,131m<sup>2</sup>であったが先年一部解除された。その理由については詳しく知るところではないが、浦幌町に細長く入り込んだ地域といい、どうも鮭漁との関連は否定できそうもない。

それぞれの指定地域は当然、文化財としての価値を認めたのではあろうが、その認めた価値を果して、どのように活用するつもりなのだろうか。国の特別天然記念物くらいの価値があれば、何から何までいたれりつくせりなのであろうが、北海道指定天然記念物の扱いとは、こんなことを言つては失礼かと思うが、現実は否定できない。

博物館などに入れられる文化財とは違ひ天然記念物の場合、これを維持管理するとなるとそれなりの費用がかかると思うと、安易に批判するわけにもいくまい。

一度その生態系を崩したら、もとの形になおすのはまず無理だろう。だからこそ保護しなければならないのだと思う。

しかば、どのようにするのが最も望ましい方法となりうるのだろうか。自然を保護するのは、自然は自然のままにしておくこと、こう言ってしまえば終りかもしれないが、最も大切なことではないだろうか。自然保護というからには何かから自然を守ることなのだろうか。実のところ、自然を守ろうと言っている人間から守ることが自然保護の最大の目的のように思うのだが違うだろうか。もし、人間の手から自然を守ろうとするのであれば、少なくとも自然の営みを乱すような事だけはしないでほしいし、一度人間の手を加えられたものはなかなか自然の状態には戻りにくいという事も忘れないでほしいものである。

ハマナスの花は紫というのが最も一般的であるが、白い花もあるということをどれだけの人が知っているだろうか。かつては、わざわざ探しなくても、砂を運んできたらその中に混っていたことも珍しくはなかった。

ところが、一度ブームとなると恐しいもので、今やトイトッキ浜には1本の木も見つけることは不可能ではないだろうか。

毎年、盗掘される貴重な植物、結果論かもしれないが、天然記念物の指定を受けなかった方がよりよい景観が保てたのではないだろうか。人知れず存在することが自然の本来あるべき姿なのではないだろうか。まあ、文句を言っても仕方ない。何とか昔のような美しい自然に戻す方法を考えてみよう。

例えは、自然保護に関する委員会のようなものを作つてみてはどうだろうか。委員会とは呼ばずただの自然を愛する会でもいい。自治体の御用団体なんかではなく、全くフリーの人々の参加をたてまえにして、自由な発想で取り組むのはどうだろうか。しかし、けつしてボランティアであつてはならない。自然保護はその性格上本来行政とは切っても切れない仲なのだと思うから。もちろん金もかかるだろうが、自然を愛する豊かな人間形成を目指すのならそのくらいの予算は当然必要だと思うし、そうであるべきだと思う。

1983年12月10日	印 刷
1983年12月20日	發 行
編 集 後 藤 秀 彦	
發行責任者 家 村 克 行	
發 行 所 浦幌町郷土博物館 (089-56)	
北海道十勝郡浦幌町字東山町23番地	
印 刷 所 大同出版紙業株式会社 (080)	
北海道帯広市西7条南6丁目	